



▲A群第1号墳の玉類出土状況



▲A群第1号墳の須恵器出土状況

埋蔵文化財包蔵地 新井平横穴群

市内門屋地区

新井平横穴群



エイケン工業㈱

History

キラリを再発見

住宅建設により調査された横穴

新井平横穴群は、門屋地区の横穴群の中で最も東側に位置しており、住宅裏の丘陵の南東側斜面に立地していました。

昭和60年12月12日から17日にかけて、住宅新築工事に伴いA群2基、B群4基の6基の横穴の緊急発掘調査が行われました。

A群の1号墳の内部からは、須恵器39点、土師器2点、耳環などの金属製品が7点、そして、勾玉や水晶製の切子玉などの玉類13点が出土しました。A群1号墳は出土遺物から7世紀はじめに掘削され、8世紀はじめまで埋葬が行われたと考えられます。

B群の平面形は第1号墳と第3号墳、第4号墳がフラスコ形、第3号墳が円形です。B群は4基とも芋穴として利用されたり、破壊が進んでいたため出土遺物は残されていませんでした。

照 会 社会教育課 0548-31129

Atomic

暮らしと原子力

3・4号機低圧タービン亀裂は劣化が原因、応急処置で対応

中部電力は6月21日、浜岡

原子力発電所3・4号機の発電用低圧タービンの回転動翼でみつけた亀裂などについて、平成27年3月までに修復すると市議会全員協議会へ報告しました。

【動翼部は経年劣化】

動翼には4号機で136本の割れやひびが確認されました。原因は、動翼がタービンの回転による振動と共振し、経年劣化したものと推定されました。

今回破損が確認された動翼は、すべて対策を施したものに切り換えます。

なお、超音波審査の結果、異常波形が確認された3号機の動翼は、共振が発生していなかったため、ひび割れはがないことを確認しています。

【注1】応力腐食割れ

材料の性質、材料に加わる力および材料の使用環境の3つが特定の条件になったとき材料に発生する割れ。

※詳細は中部電力のホームページで確認できます。

低圧タービンは各号機に3基ずつあり、3・4号機の計6基の29カ所で動翼接合部の車軸に亀裂が見つかりました。原因は応力腐食割れ(注1)によるものと推測されました。4号機低圧タービンのうち、亀裂の多い1基は応力腐食割れの発生を抑える対策を施したタービンに交換します。他の2基と3号機の3基は、動翼部に特殊な装置を装着するなどして応急処置を施します。今後も点検を行い、必要があれば車軸ごと交換することを検討しています。